

新年度を迎えて

上田 克彦

公益社団法人日本診療放射線技師会 会長

2025年度を目前に豪雪や山林火災などの自然災害が発生し、防災意識の重要性を改めて痛感させられる年度末となりました。被災された皆さまには、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。本会としても、会員の皆さまからの温かいご支援を頂きながら、被災地の復旧・復興に尽力してまいります。

このたび、私は2025年4月より常勤役員として、本会の活動にこれまで以上に専念することとなりました。会員の皆さまの声を直接お伺いし、皆さまと共に、本会をより一層発展させていきたいと考えております。

2024年度は、診療放射線技師の役割拡大を反映した評価がなされ、一定の成果を上げることができました。しかしながら、医療現場における診療放射線技師の役割はますます重要性を増しており、さらなる処遇改善に向けた取り組みが必要であると考えております。本会では、引き続き関係機関との連携を強化し、診療放射線技師の社会的地位の向上に努めてまいります。

そして本年度は、厚生労働省が定めた告示研修目標の最終年度となります。都道府県(診療)放射線技師会のご協力により、告示研修は順調に推移しておりますが、未受講の診療放射線技師の皆さまには受講を強く推奨致します。告示研修は、診療放射線技師としての知識・技能を向上させるだけでなく、タスク・シフト/シェアを推進する上でも重要な役割を担っています。

さらに人口減少に伴い効率的な医療を実現する上で、医療DXのさらなる推進、医療情報システムの安全管理など、本会が取り組むべき新しい課題も見えてきました。これらの課題に積極的に取り組み、会員の皆さまの期待に応えられるよう尽力してまいります。

診療放射線技師は、患者さんからプロフェッショナルとして信頼されることが前提で業務を行うことができるわけですが、2024年度には倫理的な観点で残念な事案がいくつか発生しております。一部の方の不適切な行為が業界全体への不信感につながることも懸念され、^{しんし}真摯に業務に取り組んでおられる会員の皆さまにご心配をお掛けしていることを、本会としても重く受け止めております。当たり前のこととして捉えていた倫理意識の向上に努めます。

2025年度のスローガンは、「安全と信頼、診療放射線技師の使命と責任を果たそう」としました。会員の皆さまにはこのスローガンを胸に、診療放射線技師としての使命と責任を自覚し、日々の業務にまい進していただきたいと思っております。

本会は、会員の皆さまとの連携を強化し、開かれた組織運営を心掛けてまいります。会員の皆さまにおかれましては、本会の活動へのご理解とご協力をお願い致します。

